

令和3年度

水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業
(北太平洋鯨類生態系調査・IWC-POWER) 成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町4番5号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査の目的は、主に北半球産鯨類の分布、豊度解析及び系統群判別に必要な以下の情報の収集である。今年度は、国際捕鯨委員会（IWC）と日本の共同調査である「IWC/POWER (Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)」航海において、IWC/科学委員会(SC)の調査研究優先課題として、ライントランセクト方法を用いた目視調査、バイオプシーサンプル採取及び自然標識撮影実験等を実施した。なお、本調査は、IWC が約 30 年間、南半球で確立した IWC/IDCR-SOWER 調査の目視調査方法を踏襲している。

- (1) イワシクジラ、ザトウクジラ及びコククジラの詳細資源評価に関する情報収集
- (2) 希少種である西太平洋のセミクジラ及びシロナガスクジラに関する情報収集
- (3) 資源情報が不足しているその他の鯨類資源について資源量と系群構造に関する情報収集
- (4) 本調査の中長期計画を策定するために必要な情報収集

2. 調査体制

本調査は、水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて第二勇新丸(747トン、共同船舶株式会社所有)を用船して実施した。

3. 調査期間

令和3年8月2日 塩釜出港

令和3年9月30日 塩釜入港

4. 国際調査員

国際調査員として、以下の3名が乗船した。

村瀬 弘人 (調査団長・国立大学法人 東京海洋大学 准教授・日本)

その他、日本人1名及び米国人1名の鯨類研究者

5. 調査海域

調査海域は、北緯 40 度以北、西経 155 度以東、西経 135 度以西の外国の排他的経済水域を除いた海域とした。

6. 調査結果

目視調査の総探索努力量は 1,877.8 浬であり、全鯨類の発見群頭数は 254 群 1,454 頭であった。

自然標識の撮影はシロナガスクジラ 7 頭、ナガスクジラ 79 頭、イワシクジラ 25 頭、ニタリクジラ 20 頭、シャチ 3 頭について行った。

バイオブシーサンプルはシロナガスクジラ 3 頭、ナガスクジラ 9 頭、イワシクジラ 4 頭、ニタリクジラ 2 頭、シャチ 1 頭から採取した。

7. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門でデータ確認が行われ、保管される。

また本調査のデータは IWC 事務局へも提供される。バイオブシー標本は、IWC 標本を米国 NOAA/SWFSC が、日本の標本は一般財団法人日本鯨類研究所がそれぞれ保管する。調査結果は 2022 年の IWC 科学委員会等へ報告される。